

活用効果評価結果

公開版

関東地方整備局 新技術活用評価会議

令和元年度

NE TIS 情報	開発目標	経済性の向上、周辺環境への影響抑制、その他(工程の短縮)																							
	新技術登録番号	KT-140120-VE	区分	機械	有用な技術の位置づけ	—																			
	分類	機械設備 - ポンプ設備 - 揚排水ポンプ設備																							
	新技術名	特殊コンドルファ始動器「Vスター」																							
	比較する従来技術(従来工法)	始動タップの途中可変ができないコンドルファ始動器																							
活用 効果 評価	新技術の概要 及び特徴	本技術は始動タップの途中可変が可能なコンドルファ始動器で従来は始動タップの途中可変ができないコンドルファ始動器で対応していた。本技術の活用により始動時のトルク上昇に合わせてモータ電圧を順次昇圧するので発動発電機の容量を小さく出来経済性の向上が図れる。																							
	所見	<p>【優れていた所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・始動電流を非常に小さく抑え電源容量を大幅に節減できるため、発電機の少容量化が図られ、経済性に優れる。 ・独特な磁束消去方式により、コイルの劣化を防ぐことで耐久性が向上するため、品質・出来形に優れる。 ・従来技術と比べて、非常用発電機の容量を小さくできるため、運転時のCO2の発生が低減し、環境に優れる。 <p>【劣っていた所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし。 																							
	次回以降の評価に 対する視点と評価 の必要性	<p>・調査表及び施工状況より技術特性が確認でき、継続調査の要件に該当しないため、情報種別記号を「-VE」とする。</p>																							
	留意事項	<p>・特になし。</p>																							
活用 効果 調査 結果	活用効果調査表に おける改良点及び 要望	<p>・特になし。</p>																							
	参考	<p>項目の平均(点)と従来技術(従来工法)(点)の比較</p> <p>参考</p>																							
活用 効果 調査 結果	対象 工事	1	排水ポンプ設備工事	(従来技術： 始動タップの途中可変ができないコンドルファ始動器)														施工者希望型(契約後提案)							
		2	トンネル消火設備工事	(従来技術： 始動タップの途中可変ができないコンドルファ始動器)														施工者希望型(契約後提案)							
		3	排水ポンプ設備工事	(従来技術： 始動タップの途中可変ができないコンドルファ始動器)														施工者希望型(契約後提案)							
		4	トンネル非常用設備工事	(従来技術： 始動タップの途中可変ができないコンドルファ始動器)														施工者希望型(契約後提案)							
		5	トンネル非常用設備工事	(従来技術： 始動タップの途中可変ができないコンドルファ始動器)														施工者希望型(契約後提案)							
		6	動力設備工事	(従来技術： 始動タップの途中可変ができないコンドルファ始動器)														発注者指定型							
		7																							
		8																							
		9																							
		10																							
		11																							
		12																							
		13																							
		14																							
		15																							
		16																							
		17																							
		18																							
		19																							
		20																							
活用 効果 調査 結果	項目	ケース番号																				項目の 平均(点)	従来技術(従来 工法)(点)		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20				
		施工 時 評価	経済性	A	A	A	A	A	A														A	3	
			工程	B	C	B	C	C	C														C	3	
			品質・出来形	B	C	B	C	C	A														B	3	
			安全性	B	C	B	C	C	C														C	3	
			施工性	B	C	B	C	C	C														C	3	
			環境	A	A	A	B	B	A															B	3
			その他																						
		総合評価点	B	B	B	C	C	B															B		
今後、当該技術を活用 出来る工事に活用 したいか	今後もし是非活用したい	活用を検討したい					場合によっては活用する こともある					技術の改良を強く望む					各項目における判定								
	58%	25%					17%					0%					A	従来技術より大幅に優れる							
	H26.4以降の活用効果調査表6件にて判定																				B	従来技術より優れる			
																					C	従来技術と同等			
追跡調査の必要性	不要																								
追跡調査	—																								